

大きくなったね、タマちゃん

タマちゃんの一年

エピソード集

〈タマちゃんを見守る会〉



タマちゃん、東京湾系河川での一年間



1. タマちゃんが日本の河川に初めて姿を現したのは2002年8月7日でした。それから1年
8月7日の時点で出現日数はのべ129日となっています。

- ◆多摩川 8月7日～17日、東京湾から約15kmを往来しながら
出現11日 ら鉄橋の基礎に上がって休息
- ◆鶴見川 8月25日～30日、横浜港湾から約10kmを往来し
出現6日 ながら鉄橋の礎に上がって休息
- ◆大岡川 9月15日～24日、横浜港湾から約4kmの地点
出現6日 を往来
- ◆帷子川 9月12日、9月29日～3月14日
出現47日 横浜港湾から約3kmの護岸が休息場
となっていました。
- ◆中川 4月20日～4月24日
出現5日 東京湾奥部から約30kmの係留中のボ
ートのデッキを休息場所にして往来
- ◆荒川 3月22日、4月27日～8月7日現在
出現52日 東京湾奥部から約36kmの係留中のボ
ートのデッキを休息場所にして東京湾と
の間を往来

その他のべ2日は、横浜港内と隅田川で目撃されていました。

このようにタマちゃんが河川から河川へと移動したのは、危険な事があったり、
休む場所がなかったりしたためです。4月下旬から8月上旬までの時点では、
潮の干満に影響されずに休息の出来る、ボートのデッキが大好きなようです。

「タマちゃ〜ん」

2002年8月7日、アゴヒゲアザラシが多摩川に現れてすぐから名前も自然発生的に「タマちゃん」と名付けられました。子供から大人までの、大の人気者になりました。

「激やせ」とも報道され、「かわいそうだ、なぜ保護をしないのだ」などの声もたくさんでしたが、タマちゃんは意に介する様子もなく愛嬌をふりまきました。(あとになって、アゴヒゲアザラシは夏になると皮下脂肪をおとし、体重が2〜3割落ちる事もわかりました。))

多摩川でも鶴見川でも花火大会と台風に遭遇し、川から撤退し行方不明になってしまいました。

多摩川の写真



鶴見川で



(小島一浩さん撮影)

帷子川・大岡川へ

2002年9月12日、12日間の空白をおいて突然、帷子川の護岸にいるところをタクシーの運転手さんが発見、見物人が押しかけました。

翌日は横浜港内の中央市場前で目撃されましたが、その後、またも行方不明。

9月15日、今度は大岡川で発見のニュース

大岡川では護岸の段差が無く体を休める場所がありません。Y高ボート部の船着き場や中村川・池下橋下の護岸で一夜を過ごしましたが、人間が接近できる場所だったためにイタズラもあり、9月24日のお昼前に大岡川から姿を消してしまいました。

大岡川での写真



再び帷子川、台風と遭遇

9月29日、4日間の空白を置いて、再び帷子川へ登場、ところが翌日は台風と遭遇、またも姿を消してしまいました。

やっぱり帷子川へ、10月9日、10日間の空白を置いて帰ってきました。

帷子川でのタマちゃんの新しい歴史の始まりです。

「ハマのタマちゃん写真展」の開催と「タマちゃんを見守る会」の誕生

帷子川ではほぼ決まった場所にタマちゃんが現れ、護岸の段差に上がって休みます。いつも同じ場所に見学者が集まり交流の輪も広がり、写真展をやろうじゃないかとの声があがりました。「タマちゃんを見守る会」も誕生し、12月6日から12月15日まで、関内のホテルのロビーで「ハマのタマちゃん、ミニ・ギャラリー」が開かれました。



護岸での排尿

この1年間でオシッコシーンが見られたのは2回だけです。



2002年11月15日（金村さん撮影）



2003年2月26日

タマちゃんの間人ウォッチング

タマちゃんは人間に興味があるのでしょうか。一人一人の顔をジッ~とのぞき込みます。最近、荒川では対岸に人がいたり深夜に川辺にいと、わざわざボートを降りてきて近づいてきます。

「私の目を見つめた」みなさんが「自分とタマちゃんが見つめ合った」とお話をされます。

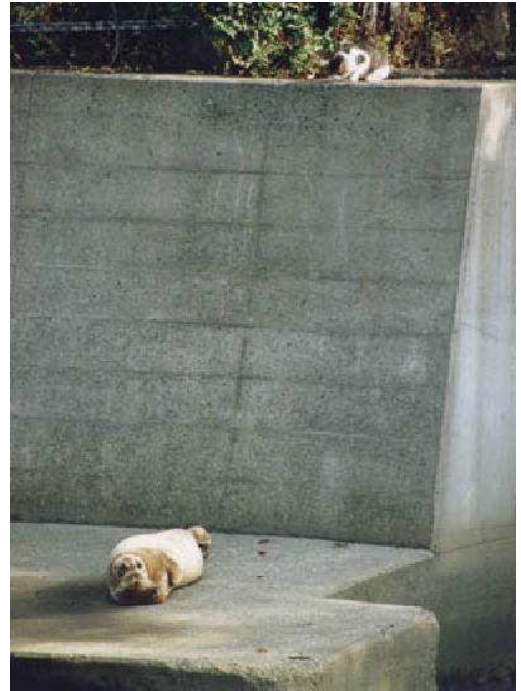


「タマちゃん」流行語大賞受賞

2002年12月3日、今日は朝からタマちゃんは帷子川の護岸にいます。カモメや猫ちゃんもタマちゃん見物。

*タマちゃんが流行語大賞*国民的人気も定着してきました。

↓ユリカモメが盛んにタマちゃんの周りを飛びました



(佐藤慶太さん撮影)

↓流行語大賞を伝えるテレビと現場からの実況中継



タマちゃんの新年

大晦日には姿を見せたタマちゃんもお正月は東京湾で優雅なお食事だったのでしょか。

初めて新年の挨拶に現れたのは1月5日でした。

この日の写真は全国のほとんどの地方新聞でも取り上げられました。



タマちゃんの危機(捕獲騒動)

3月11日(火)

昨夜からお泊まりのタマちゃん。今日は天気も良いし、久しぶりの日向ぼっこかと思ったんですが、6時頃から変な動きが始まりました。異変に気付いたタマちゃんは6時半、川へ飛び込みましたが、ダイバーと網が上下流の両方から迫ってきました。

網に囲まれた時も、慌てる様子もなく、網が10m位に近づいた時は20数名(ダイバーも6人が潜っていた)いた捕獲メンバーの誰にも気づかれることなく、網を通り抜けていました。(タマちゃんすごい)



その後、いつもの海に帰っていくように、ゆっくりと7~8分おきに、顔を出しながら、25分かけて平沼橋まで行き、海に帰って行きました。(朝7時50分)自分が捕獲されようとしたなんて、気づいてもない様子でした



網に挟まれているタマちゃん



網を逃れ海へ向かう

タマちゃんがお別れの挨拶に



捕獲騒動の3日後の3月14日、午後2時頃、大棧橋付近で目撃されたそうです。午後4時半、沼野橋上流で姿を現し、尾張屋橋まで行ってUターン、午後4時57分、平沼橋から海に向かいました。

帷子川にいたのは30分、この日が帷子川最後の日になりました。お別れの挨拶に来たんでしょうか。

←帷子川での最後の姿(金村さん撮影)

荒川で目撃、中川でボートのデッキへ乗船

3月22日（土）荒川に現れる？

埼玉新聞によると、22日午後1時ごろ、埼玉県の戸田・朝霞・和光の市境にある荒川の朝霞水門付近で目撃されたそうです。

3月31日（月）隅田川に現れる（目撃情報）

4月4日（金）旧江戸川に現れる（目撃情報）

4月7日（月）東京湾内で目撃情報

4月20日（日）隅田川の河口に現れる

深夜1時に、ボートに乗っているのを釣り人が発見。午前6時埼玉県警が確認、ビデオ撮影。午前10時より午後4時までゆっくり、時には戻ったりしながら下流に向かう。

夜10時、同じボートで休んでいるところが目撃されました。



今福さん
撮影

本当にタマちゃん？

中川に現れたのは本当にタマちゃんなの？

帷子川の写真と中川での写真を比べてみると、頭の同じ箇所に同じ様な傷がありました。 ↓帷子川のタマちゃん

↓中川のアザラシ



科学的にも

帷子川の護岸で回収した体毛と中川のボートのデッキで回収した体毛の DNA 鑑定の結果、科学的にも帷子川にいたタマちゃんが東京湾を70km移動して中川、荒川に移動したことが確認されました。

換毛期

アザラシは毎年春になると、換毛期と云って体中の古い毛が全部抜けて、新しい毛に生え替わる期間があります。アザラシによっては1～2ヶ月の間、全く食事もとらず陸上に上がってすごす必要があるとの話もあり、そんな環境があるんだろうかと心配されました。

そんな中、帷子川を追われ、中川でも人間のイタズラからボートを追われ、必死で休息場所を探しているタマちゃんの姿に胸を痛めました。「見守る会」では換毛期に入ったタマちゃんの状態をチラシで知らせ、静かに見守る事を訴えました。

私たちの心配をよそに、タマちゃんは荒川でグレースⅢ号を見つけ、みごとに換毛期を乗り切りました。



4月20日、中川、体毛が抜けはじめる



5月5日、荒川、半分ほど抜ける



5月19日、古毛がほとんど抜ける、新しい毛も。5月22日、全身を新しい産毛状の毛が



6月5日、プラチナ・タマちゃん



6月12日、白タマちゃん

荒川に出現

4月27(日)・28(月)、朝霞市の荒川(鉄橋の下流1km)で釣り人が目撃

5月3日(土)14時、荒川(笹目橋上流500m)で釣り人が目撃

えっ! 釣り針が

5月4日(日)朝10時、荒川(鉄橋の上流200m)に出現、目に釣り針が.....

お昼から係留中のボートに、乗ったり降りたりで夜まですごす。

目の釣り針は痛々しかったけど、タマちゃんは元気はつらつでした。前夜からお泊まり、ボートに乗ったり降りたりしていましたが、ボートから離れようとしません。ジャンプや背泳ぎまでして、泳ぎを楽しんでいる様子でした。お泊まりをして、翌朝7時頃姿を消したようです。



釣り針は痛々しいけど、元気に泳ぐタマちゃん、背泳ぎまで披露しました。

5月7日(水)「想う会」が帷子川でが捕獲訓練



荒川で捕獲するための訓練だとうそぶいていました。

5月10日(土)早朝、タマちゃん5日ぶり姿を現す、釣り針は刺さったまま。夜はお泊まり。怪しい団体の動きが心配、みなさん警戒態勢。

5月11日(日)昨夜からお泊まり、
午前5時 「アレッ、釣り針が付いていない」



昨日まで刺さっていた釣り針が、薄暗い中、確かに釣り針が見えない。明るくなってきたらタマちゃんが、ボートのしたを潜って来て目の前へ、「ほら、ちゃんと釣り針は外したよ、心配かけたな」と.....

エアガン・ボーガンでもねらわれる？

深夜の見物人が後を絶たずイタズラも懸念されたため、5月31日、夜間監視を実施してみた。午前1時ごろ、対岸で銃声のような音が5発ほど聞こえた。

5月2日、あるインターネットの掲示板に“犯行声明”があったことを会員が発見。5月30日午後11時25分に「これから出掛ける。エアガンや催涙スプレーも持った。待ってろよタマ公！」という内容が書き込まれていたほか、同31日午前2時54分には「今帰ってきた。思ったより監視が多く、対岸から50発撃った。(タマちゃんには)当たらなかったようだが、今回はボウガンを手に入れたときの下見だ」といったカキコミがあった。

当日の現場の状況、時間的経過、現場に行かなければ知り得ない現場の様子などから、単なるイタズラではなく、本当にタマちゃんへの攻撃を狙っているものと判断して、河川事務所、警察へも通報し、その後も監視活動を強める。

タマちゃんのおヒゲはどうして、ピンと張っている時とヨレヨレの時があるの？

タマちゃんの色が黒い時と白い時があるのはどうして？



1月18日、帷子川



7月3日、荒川



1月7日、帷子川



7月17日、荒川

アゴヒゲが長いのがアゴヒゲアザラシ（タマちゃん）の最大の特徴です。水中で敵の動きや獲物の動き、居場所を感知する大切な気管です。200m～300mの光の届かない深海でも獲物を捕食出来ます。陸上にいる時はその必要が無く、ピンと張っているとぶつかった時折れてしまうので、乾いてくると柔らかく縮れてくるそうです。

体毛を採取した時に解ったんですが、全身を被う体毛も水に濡れている時は透明感があり、ガラス繊維状ですが、乾いてくるとふんわりとカールしてきます。

帷子川では茶色だった地肌の色も、荒川に来た時は黒色になり、水に濡れている時は体毛は透明感があり皮膚にぴったりくっついているため、地肌の色がそのまま見えます。

乾いてくるとふんわりとして透明感もなくなるため、地肌の色が見えなくなり、白っぽく見えます。これから秋にかけて、体毛の色もだんだん茶色っぽくなっていくでしょう。

成長したタマちゃん、冒険心豊か、なんでも興味津々



流れてきた竹竿を突いたり、船のアンカーに向かってジャンプ



犬のブルブルみたいに首を激しく回したり、背泳ぎでボートにぶつかる事も



アゲハチョウが飛んできて挨拶、



髭センサーで確認作業

花火・台風も乗り越えて

8月 8日（金）、タマちゃん登場、しかし、台風が！！

午後3時半、ボートに乗るが荒川がみるみる増水、栈橋、ボート共に緊急避難開始、何が起こったんだとの表情をしながら、ボートの後を追っているようです。

8月 9日（土）、ボートのあった位置で目撃情報。タマちゃんは海に戻らず、水門付近へ緊急避難か？

8月10日（日）、12時半、グレースⅢ号の避難先で乗船との情報。17時、栈橋が定位置に戻る。直後にタマちゃんも栈橋の周りをキョロキョロ。「グレースⅢ号はどこだ〜」、18時、グレースⅢ号も定位置に。タマちゃんは作業の終了をまっているようです。18時45分、作業終了直後に乗船＼(^o^)/＼(^o^)/タマちゃんはすごい、台風をやり過ごす術も覚え、人間の行動を監視しながら自分の居場所をしっかりと主張

8月11日（月）、大きなゴミに向かって猛烈な突進をみせたりと、大暴れだったとか

8月18日（月）、5日ぶり、しかし、グレース号が無い??

朝7時半、タマちゃんが戻ってきました。しかし、荒川の増水のためグレースⅢ号は避難したままで姿が見えません。タマちゃんはボートのあった場所でキョロキョロとしています。

11時45分、グレース号が帰ってきました。午後3時、タマちゃん乗船。雨が降って、傘お化けが増えても、地震があっても、ボートから下りません、ゆっくりお休みの様です。



換毛期、花火、台風と、夏の暑さ、タマちゃんは次から次へと迫り来る危機を、自らの力で見事に乗り越えました。

東京湾とその河川へ、迷い込んできたのか、自らの意思で来たのか定かではありませんが、その生命力と適応力で、力強く生き抜いている事は疑いありません。

日本全国の多くの方々へ勇気と希望、こころの癒しを与え続けるタマちゃん。

これからも、益々たくましく成長する姿を、私たちに見せ続けてくれる事でしょう。

あざらし「タマちゃん」からのメッセージ

H. K.

去年の8月7日、東京の多摩川に衝撃的なデビューをしたタマちゃん。あれから早いもので、もう一年を迎えようとしています。タマちゃんは何故北の海から遙々この日本という国に来たのか、色々と考えました。

もしかして、理屈などなくただ単純に来てしまったのかも知れません。しかし、このタマちゃんによって私のちっぽけな人生が180度変わったのは事実です。私だけではなく、日本の各地で人生が変わっていった人々が沢山いると思います。

私に限ってお話ししますと、去年の今頃まではそれこそ毎週のように歌舞伎、オペラ、宝塚、ミュージカル、コンサート等に出掛けておりました。犬二頭と一緒に暮らしている為、遠くへ旅行に行く事が出来ないのです、近間の劇場にせっせと通っていたのです。でも、心の中では何か分からないのですが、私の求めている物とは違うと思いつつ、目先の事に毎日を送っておりました。

そんな心の空白を埋めるように、タマちゃんは現れました。一目見て、余りの可愛さに物凄い衝撃を受け、私の心はタマちゃんにすっかり捉えられてしまいました。そして、この子を助けなければと思い、どうすれば良いのかと思うと夜も眠れなくなってしまいました。まだ、野生動物に対しての知識は殆どなく、浅はかな考えでした。タマちゃんを保護しなければとの思いが募り、私の友人、知人に片っ端に連絡をし、マスコミ、新聞、行政にタマちゃんの保護を訴えてもらうようお願いをしました。それこそ、署名活動もしなければなんて考えてもいたのです。私の周りの皆様もそれなりに私の考えに賛同してくれ、それぞれに電話、パソコンでメール、ファックス等で動いてくれました。そうこうするうち、タマちゃんのマスコミ報道が下火になり、タマちゃんが今どうしているのか、という情報が入らなくなり、帷子川に行ってみました。そこで、何と本物のタマちゃんに逢い、またそこで素晴らしい出会いがありました。Mさんと言う女性です。彼女は、もう20年も野鳥の会に入っていて、野生の生き物や環境問題に取り組んでいたのです。私にとっては、まさに未知の世界でした。彼女のお話しをお聞きする度にカルチャーショックを受け、どんどん野生動物、環境問題について興味がわいて来ました。そして、ある方からアドバイスを受けました。それは「野生動物に関わるという事は、感情50%、知識50%でいかななくては駄目」という話しでした。どうも私は、何時も感情が先走って100%自分の思いを傾けていたようです。それからは、色々な野生動物に関しての本を読み、TVを見、ビデオを見て自分なりに勉強して来ました。この世界は、後ろに宇宙観を携えて、大きな心の目で見て行かなくてはならないという哲学も少しだけ

学びました。今まで生きて来た中で、心がとても充実しています。彼らの生きる為に生きる、何の善悪も憶測もなく、純粹さにとても惹かれます。人間は何と業があり、欲望が深いのか、自分自身を見つめますと、とても動物達に対して恥ずかしくなります。今は、別の意味で彼らを守ろうと思います。それは、彼らと共に人間も同じレベルだという事、この一つしかない地球と一緒に生きていると言う事、それは人間、動物が共存出来るという環境を守るという事です。安易な事ではないと今、物凄く生きている、いや生かされている重みを感じています。タマちゃん、本当に有り難う、これが私の今の気持ちです。



タマちゃんに癒されて

タマちゃんを見守る会の日本一幸せな一主婦より

タマちゃんに癒されて8カ月、日本一幸せな一主婦です。昨年11月中旬にタマちゃんに初めて逢いました。何度も足を運び、それまでは一度も逢えない時にTさんとの出会いで、私の人生が一変しました。更年期のために気分が塞ぎがちな毎日の自分でしたが、今はタマちゃんに癒されて全快に近い状態にまで回復し、何事にもプラス思考になり、タマちゃん療法で水平線上いるような気分です。

昨年暮、一回目の写真展の時には双眼鏡で覗いたタマちゃんをバックに描き好評でした。これからも書き続けます。

今は、夫と息子、私の三人の他に、ペットのアフガンファンド犬と野良ちゃんの雑種犬(今年一月右足骨折していたのを保護し、川口動物病院にて手術、三カ月後に全快。飼い主表われず、名前マイコとして里親になる。)今は家族にもすっかりなれて、タマちゃん同様にペット達も私を癒してくれています。

現在、タマちゃんは荒川に移り埼玉県民の皆さんが見守ってくれています。横浜のタマちゃんを見守る会も同様です。早起きして横浜からせっせと荒川まで逢いに行っています。これからも全国のアイドルでいてくれますように。又、船の上でタマちゃんがいつまでも安心してお昼寝が出来ますように…。

タマちゃん健康、安全、無事を祈っています。



あるカメラマンの心情

C. F

これが最後のシャッターチャンスなるかも知れない、いつもそんな思いで撮影を続けて1年がたってしまいました。。

しかし、タマちゃんの魅力にすっぴんのめり込んでしまい、今では、タマちゃんの一挙手一投足に自然とシャッターを押してしまいます。

帷子川に居た頃より、更にたくましくなり、幾多の苦難を乗り越えて生き抜くタマちゃんに野生の神秘と力強さを感じずにはられません。

一人で撮影している時タマちゃんが近づいてきて、じい〜っと見つめられると、写真を撮っているだけでいいのだろうか？一瞬シャッターを押す事をためらう事もあります。

「写真を撮るだけでごめんね」君の変化を見逃さないで、君の記録を残して、

君のメッセージをみんなに伝えるためだから.....

タマちゃん

大塚杉子

これというきっかけもないのに思い出し笑いをしてしまうことがあります。
タマちゃんの不器用に、そして必死に—α(,,©)陸によじ登るときの大きな黒い目のウルウルしさがかわいらしくて！
安易に動物をかわいいと言ってはいけないよと戒められましたこともありましたのに、私はかわいらしいと思うだけで、心がゆったりしてきます。
そしてこのような環境へたどり着き、必死に生きとしていける者の強さとたくましさとけなげさに、ただただ慈しみの心で見えています。
それと共に見守る会の方々に接し、ご親切なお人柄の皆様のお交わりにも私のギスギスした気持ちにも丸みを待たせていただきました。
皆様のやさしく慈愛の心でタマちゃんを見守る姿勢にも頭の下がる思いばかりです。

■それぞれの方の力を出せる所には力を出し

■もめごとは静かに解決に導いてゆく

年長者の方々の温厚なお人柄の方々の集まりに教えられることばかりです。
見守る会の方々が写真を撮ることで口のきけない者の代弁者となって、自然が少しでもいき物達への良い環境となれるようにと訴えて、小さな集まりが大きな力となりますように。
見守る会の方々の視線の先も同じ水平線を見つめているのですね。何と良い出会いだと思います。
そしてタマちゃんにとっての私達も環境としての存在となってあげられればと良いのだと思うばかりなのです。

鶴見川でのタマちゃん

小島一浩



平成14年8月25日にタマちゃんが初めて鶴見川にやって来ました。

私がタマちゃんを見るきっかけになったのは、翌日のTV報道でした。
鶴見川は自宅から比較的近く、多摩川には行かなかった為、一度ぐらい見ておこう思い、その日の夕方、東横線・綱島鉄橋の橋脚台の所に行ってみました。
夕方にも関わらず、見物人は時間が経つにつれ増えてきて、人が大勢いる方へ行ってみると、タマちゃんが橋脚台に上陸することによって、蟹が足元を行ったり来たりする中で数時間待ってみましたが、その日は結局見る事が出来ませんでした。

しかし、朝9時半頃にタマちゃんが必ずここを通ると言う情報を耳にしたので、翌朝再び訪れてみると、驚くことに本当にその時間に上陸しました。私にとって初めてのタマちゃんとの出会いでした。その時のタマちゃんの体色は、朝日が反射しているせいか白っぽく美しく輝いていました。

次の日は、潮の関係なのか、タマちゃんは上陸するはずの橋脚台を通過して下流に向かって泳いで行ってしまい、見物人はタマちゃんと追いかけてっこ状態でした。

8月29日、その日は出現場所がいつもの橋脚台ではなく、そこから少し上流の新羽(にっば)橋に移りました。厳しい日差しにもかかわらず、真っ黒に日焼けした顔の人々が大勢タマちゃんが泳ぐ方に足を運んでいました。タマちゃんは約5mずつ進んでは水面から顔を出して愛嬌を振りまいていました。数時間かけて約100mの距離をゆっくりとしたスピードで、まるで皆に挨拶をしているかの様に、かわいらしい目で左右に見回しながら往復してから夕日が眩しくなる頃、更に上流に向かいスピードを増して一直線に泳いで行ってしまいました。そして鶴見川でのタマちゃん最終日となる8月30日午前中には、タマちゃんは下流に向かって高速で泳いで行ってしまったそうです。

私は、今まで海獣としてのあざらしにこんなに興味を持った事はありませんでした。猛暑の中ではありましたが、タマちゃんのお陰ですばらしい夏の休暇を過ごす事が出来ました。

